

素粒子現象論研究会 2022  
2023/3/18

# $T^2/\mathbb{Z}_N$ オービフォールドにおける 指数と巻き付き数

今井 広紀

(神戸大学 素粒子理論研究室)

この講演は、坂本真人氏、竹内万記氏、龍田佳幸氏との共同研究に基づく  
H.Imai, M.Sakamoto, M.Takeuchi, and Y.Tatsuta, Index and winding numbers  
on  $T^2/\mathbb{Z}_N$  orbifolds with magnetic flux, arXiv:2211.15541 (hep-th) (2022)

- **背景とセットアップ**
- **研究の目的**
- **指数定理の導出**
- **結果と展望**

# 背景：世代数問題

## ■研究の動機…世代数問題

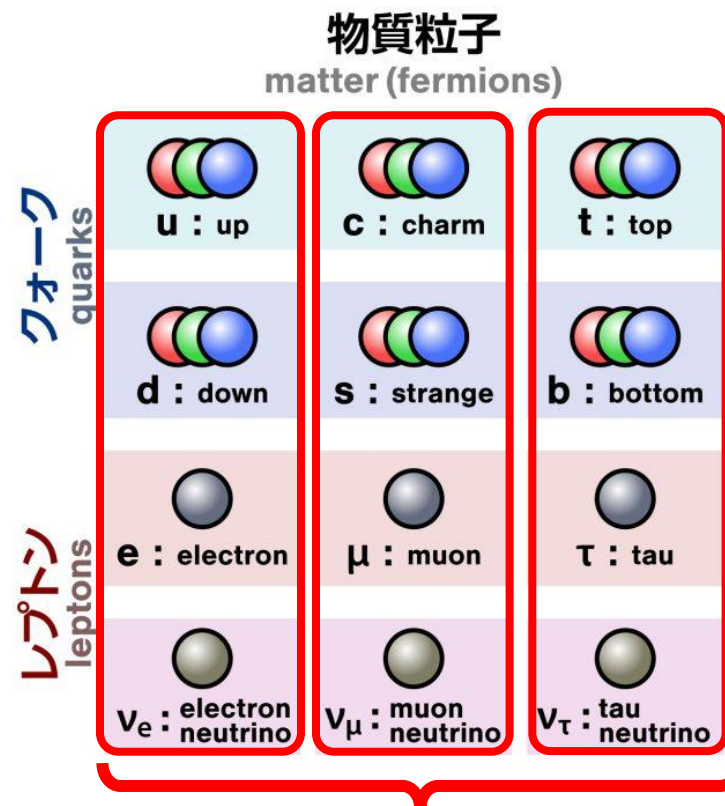
標準模型では3世代が説明なしに与えられる

世代数の起源は謎のまま

自然に説明したい

有力な候補

2次元の**余剰次元**模型

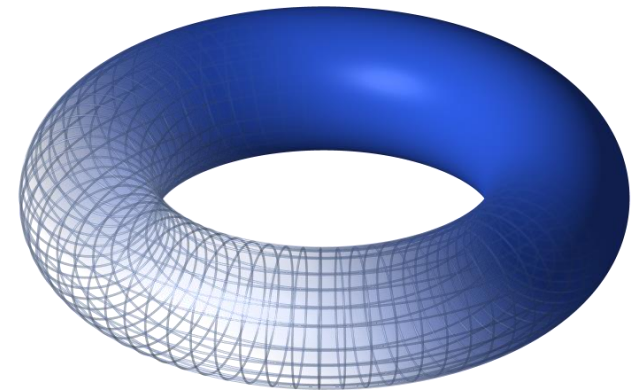
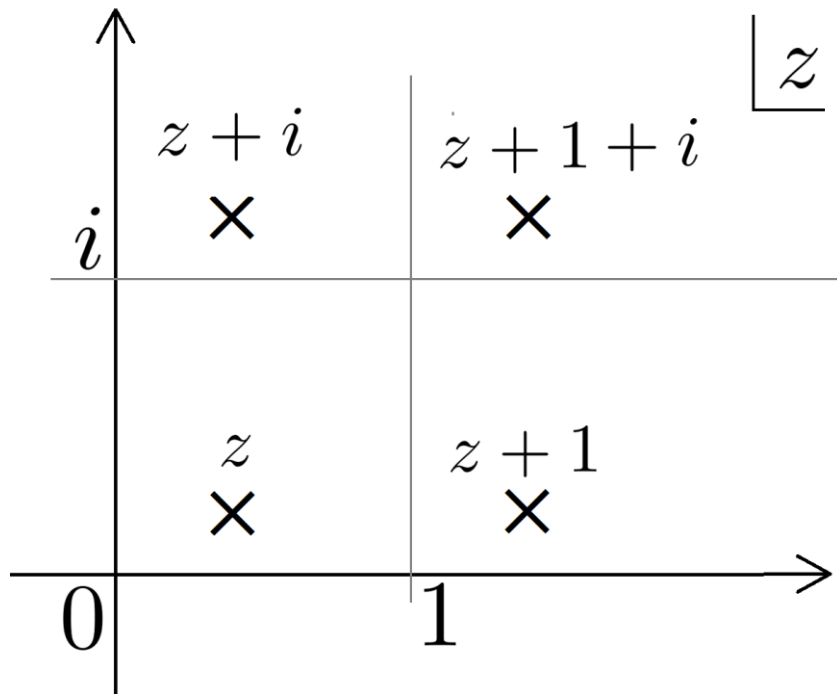


質量の違いを除けば、  
まったく同じ粒子が3種類

# セットアップ: オービフォールド $T^2 / \mathbb{Z}_N$ 4

■今回考える模型…  $T^2 / \mathbb{Z}_N$

①トーラス  $T^2$ :  $z$ と $z + 1$ と $z + i$ を同一視

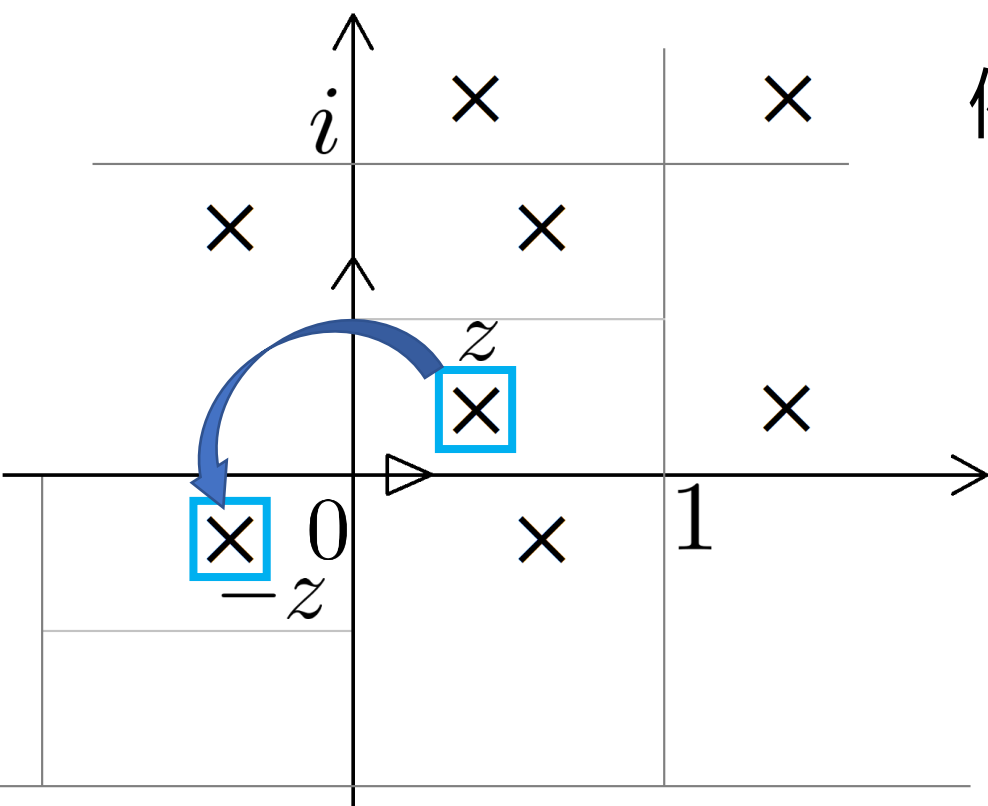


# セットアップ: オービフォールド $T^2 / \mathbb{Z}_N$ 4

■今回考える模型...  $T^2 / \mathbb{Z}_N$

①トーラス  $T^2$ :  $z$ と $z + 1$ と $z + i$ を同一視

②オービフォールド  $T^2 / \mathbb{Z}_N$ : さらに $z$ と $e^{2i\pi/N} z$ を同一視



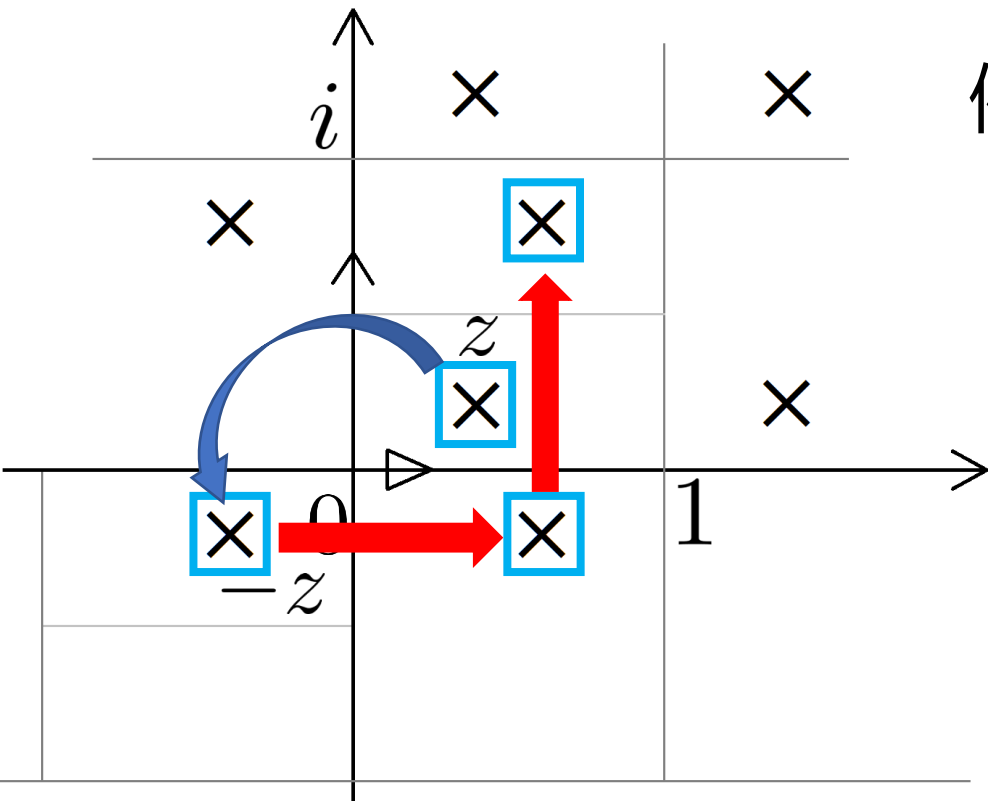
例:  $N = 2 \dots z$ と $-z$ を同一視

# セットアップ: オービフォールド $T^2 / \mathbb{Z}_N$ 4

■今回考える模型…  $T^2 / \mathbb{Z}_N$

①トーラス  $T^2$ :  $z$ と $z + 1$ と $z + i$ を同一視

②オービフォールド  $T^2 / \mathbb{Z}_N$ : さらに $z$ と $e^{2i\pi/N} z$ を同一視



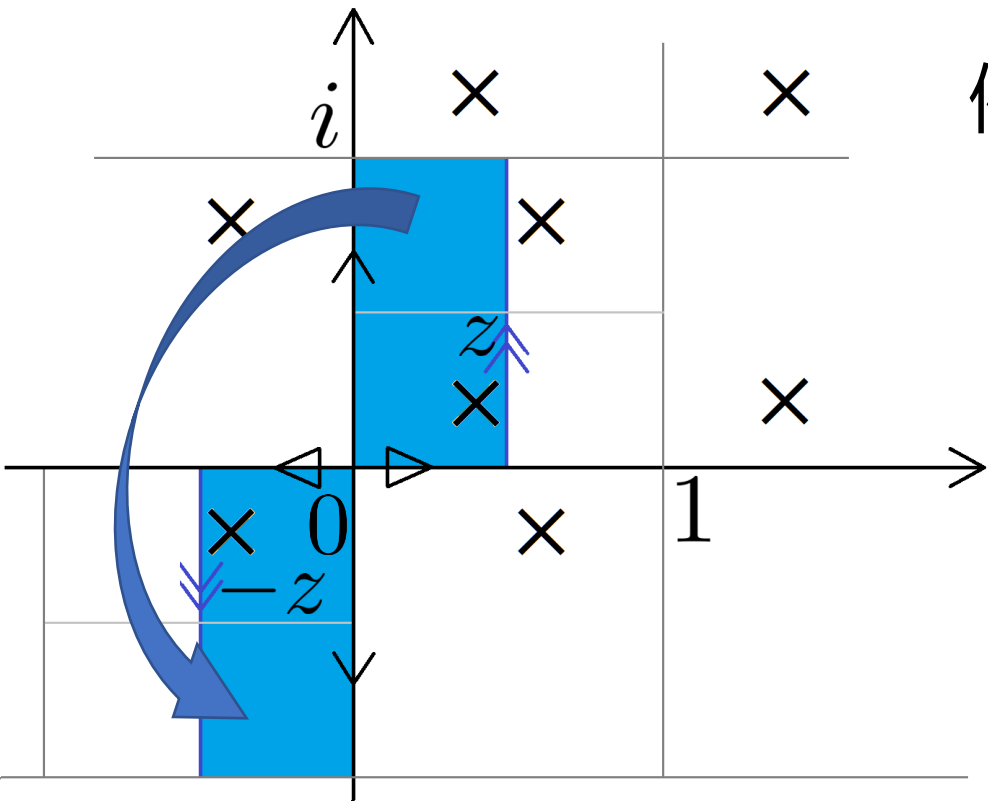
例:  $N = 2 \cdots z$ と $-z$ を同一視

# セットアップ: オービフォールド $T^2 / \mathbb{Z}_N$ 4

■今回考える模型...  $T^2 / \mathbb{Z}_N$

①トーラス  $T^2$ :  $z$ と $z + 1$ と $z + i$ を同一視

②オービフォールド  $T^2 / \mathbb{Z}_N$ : さらに $z$ と $e^{2i\pi/N} z$ を同一視



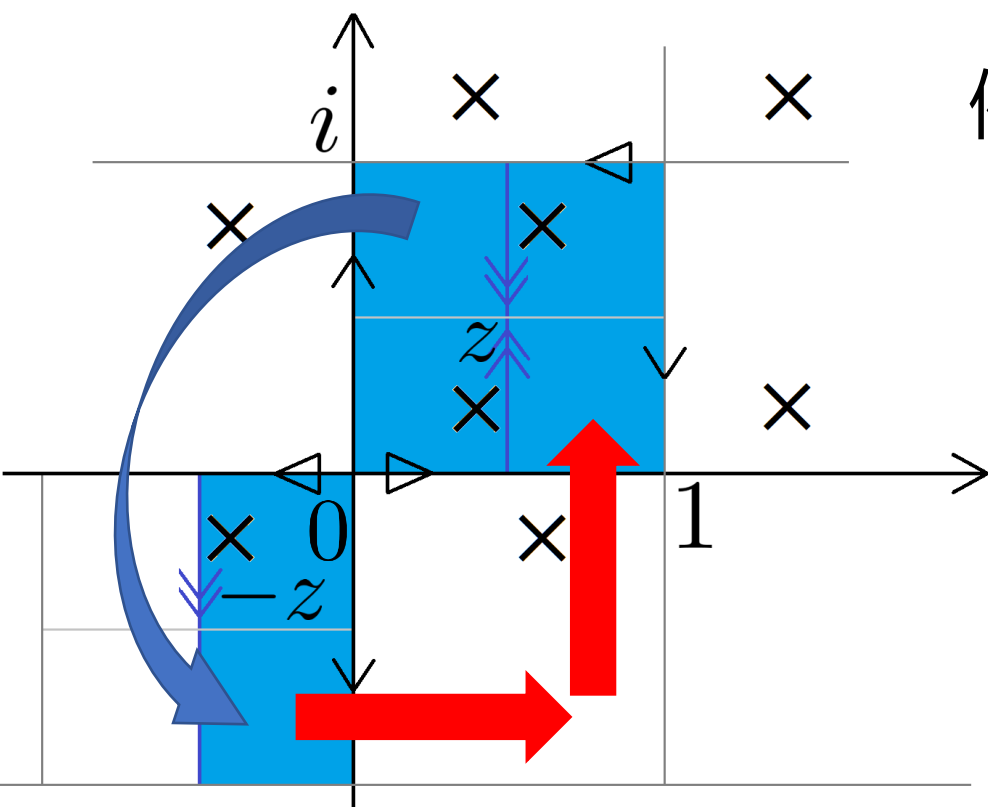
例:  $N = 2 \cdots z$ と $-z$ を同一視

# セットアップ: オービフォールド $T^2 / \mathbb{Z}_N$

■今回考える模型...  $T^2 / \mathbb{Z}_N$

①トーラス  $T^2$ :  $z$ と $z + 1$ と $z + i$ を同一視

②オービフォールド  $T^2 / \mathbb{Z}_N$ : さらに $z$ と $e^{2i\pi/N} z$ を同一視



例:  $N = 2 \cdots z$ と $-z$ を同一視

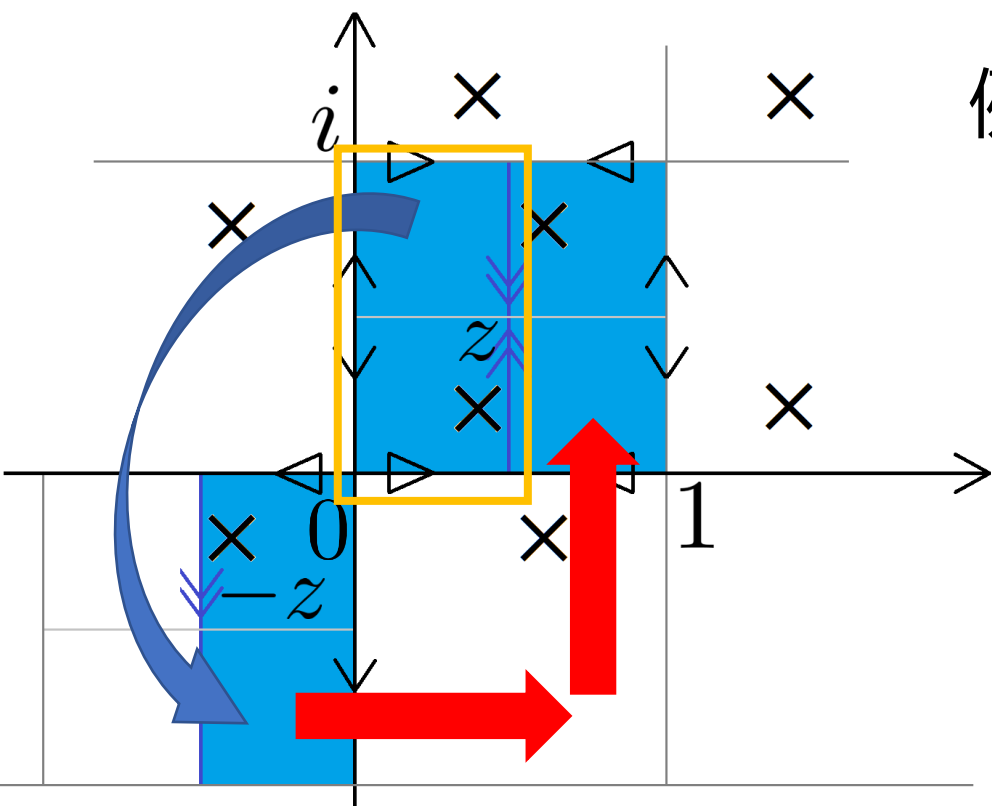


# セットアップ: オービフォールド $T^2 / \mathbb{Z}_N$

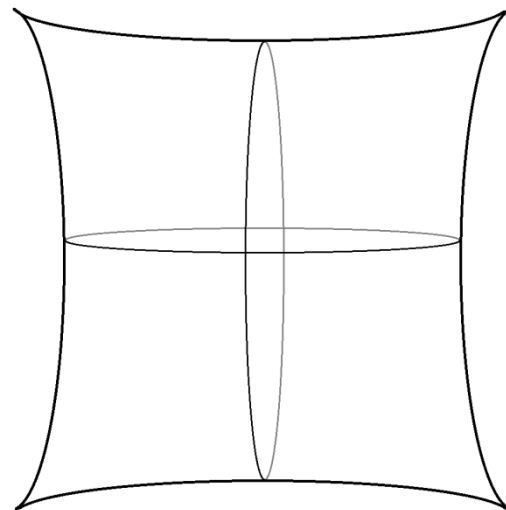
■今回考える模型...  $T^2 / \mathbb{Z}_N$

①トーラス  $T^2$ :  $z$ と $z + 1$ と $z + i$ を同一視

②オービフォールド  $T^2 / \mathbb{Z}_N$ : さらに $z$ と $e^{2i\pi/N} z$ を同一視

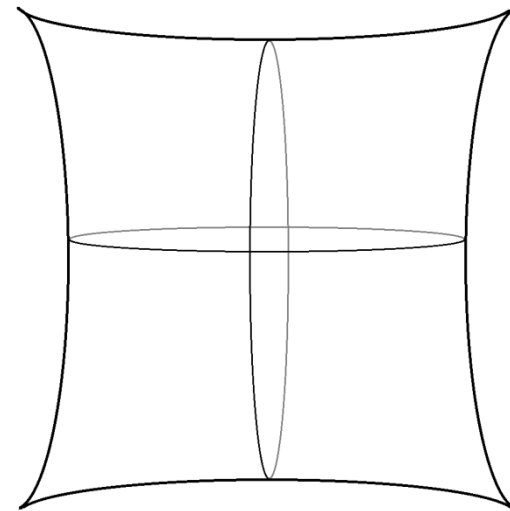
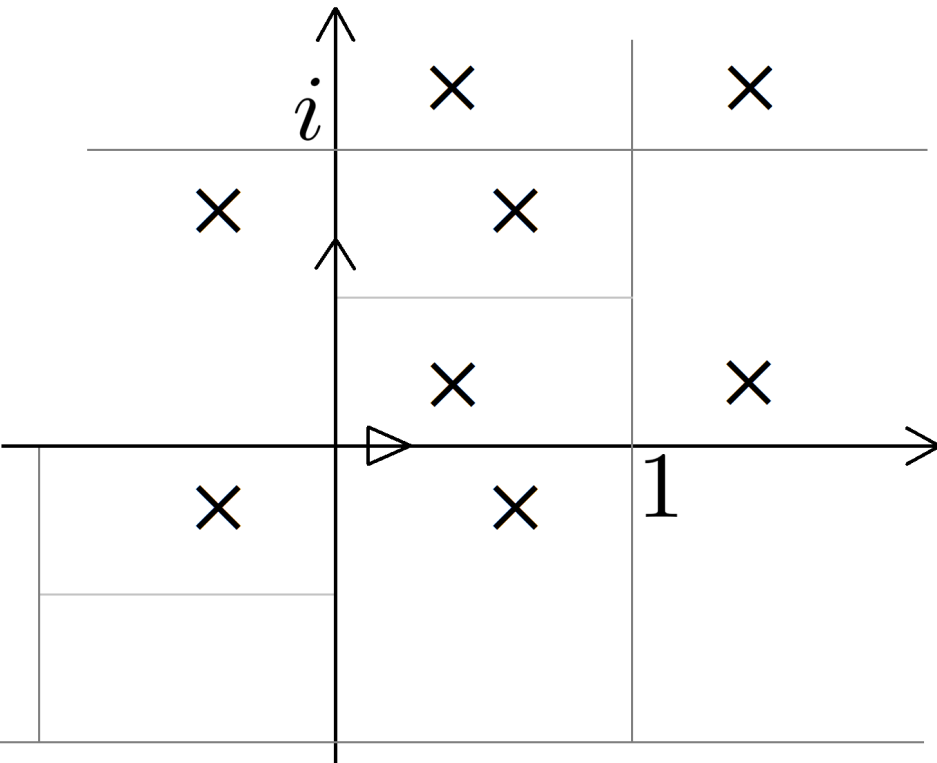


例:  $N = 2$ ...  $z$ と $-z$ を同一視



# セットアップ: オービフォールド $T^2 / \mathbb{Z}_N$ 5

■このままでは世代数を説明できない



# セットアップ: オービフォールド $T^2 / \mathbb{Z}_N$ 5

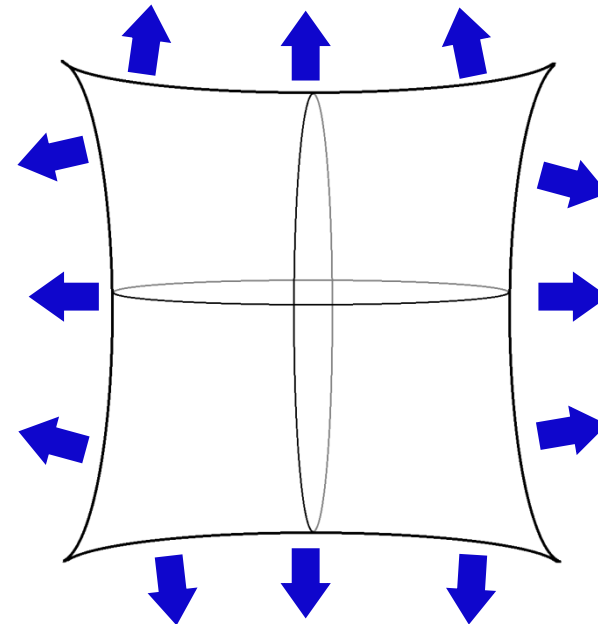
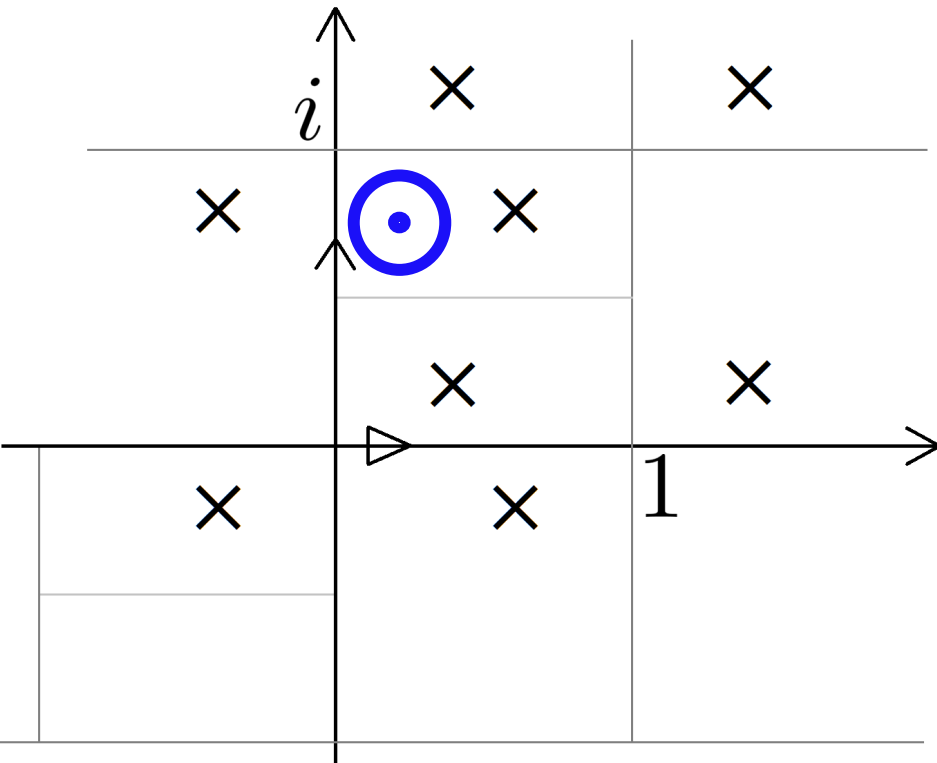
■このままでは世代数を説明できない

➡ **一様磁束  $f$**  をかける

$T^2 / \mathbb{Z}_N$  は有限領域 ➡ 磁束は量子化:  $\frac{qf}{2\pi} = M \in \mathbb{Z}$

$q$ : 物質の電荷

磁束量子化数

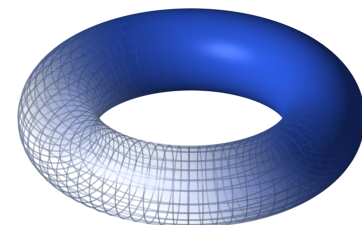


# 背景：指数定理

## ■ $T^2$ 模型における世代数

$$\underbrace{\text{ゼロモード数}}_{\text{世代数}} = \frac{q}{2\pi} \underbrace{\int_{T^2} d^2 z B}_{f} = M \quad \text{— 様磁場}$$

Atiyah-Singerの指数定理

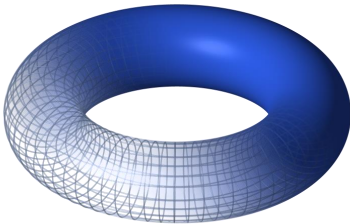


# 背景：指数定理

## ■ $T^2$ 模型における世代数

$$\underbrace{\text{ゼロモード数}}_{\text{世代数}} = \frac{q}{2\pi} \int_{T^2} d^2 z B = M$$

← 様磁場

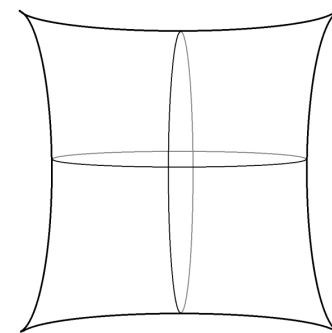


Atiyah-Singerの指数定理

## ■ $T^2/\mathbb{Z}_N$ 模型における世代数

$$\text{ゼロモード数} \stackrel{?}{=} \frac{q}{2\pi} \int_{T^2/\mathbb{Z}_N} d^2 z B = \frac{M}{N}$$

↑  $T^2$  模型の類推  $\frac{1}{N} \int_{T^2} d^2 z$

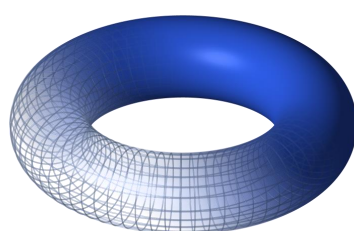


# 背景：指数定理

## ■ $T^2$ 模型における世代数

$$\underbrace{\text{ゼロモード数}}_{\text{世代数}} = \frac{q}{2\pi} \int_{T^2} d^2 z B = M$$

← 様磁場



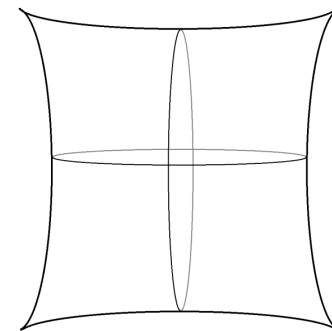
Atiyah-Singerの指数定理

## ■ $T^2/\mathbb{Z}_N$ 模型における世代数

~~$$\text{ゼロモード数} \stackrel{?}{=} \frac{q}{2\pi} \int_{T^2/\mathbb{Z}_N} d^2 z B = \frac{M}{N}$$~~

$T^2$  模型の類推  $\frac{1}{N} \int_{T^2} d^2 z$

正しくない



# 背景：指数定理

## ■ なぜダメか？

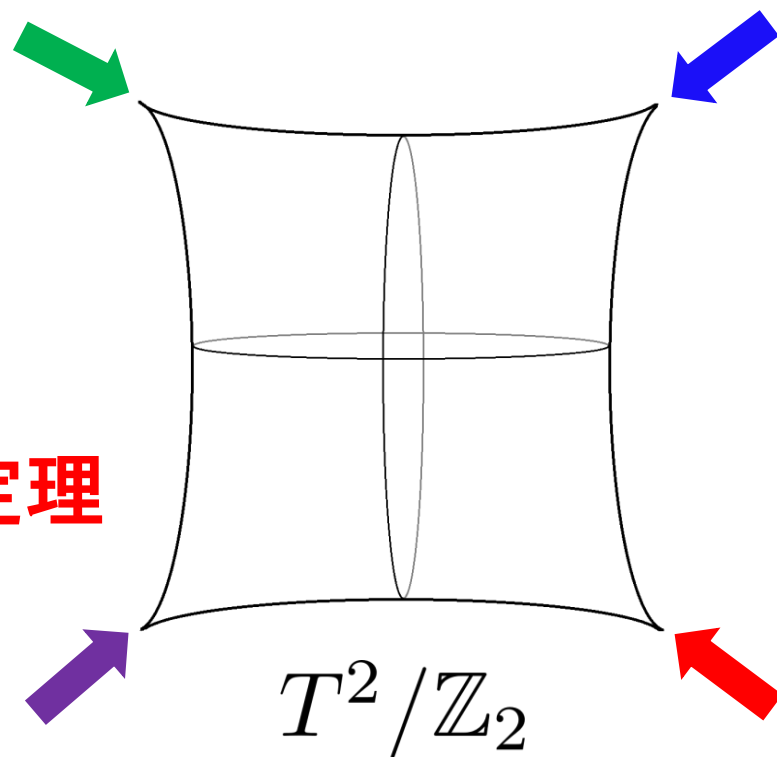
$$\text{ゼロモード数} \neq \frac{M}{N}$$

- $\frac{M}{N}$  は整数とは限らない

例： $N = 2$  で  $M$  が奇数の場合

- $T^2 / \mathbb{Z}_N$  には特異点がある

特異点があると、  
Atiyah-Singer の指数定理  
は適用できない



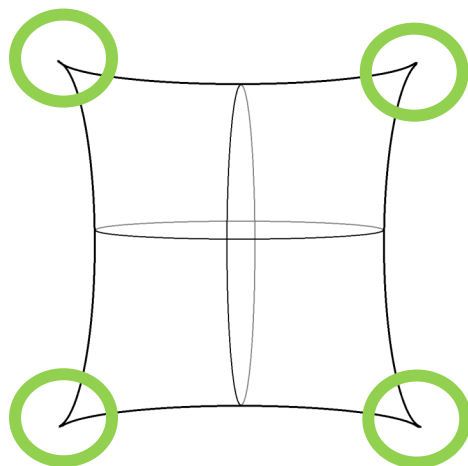
# 研究の目的

## ■ $T^2 / \mathbb{Z}_N$ での指数定理

$$(\text{ゼロモード数}) = \frac{M}{N} + \frac{-V_+ + V_-}{2N}$$

$V_{\pm}$  : 特異点における物質場の巻き付き数(の合計)

を導出する

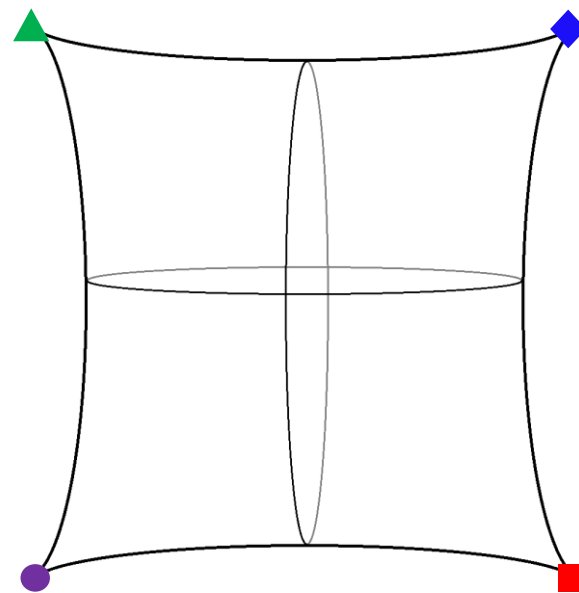
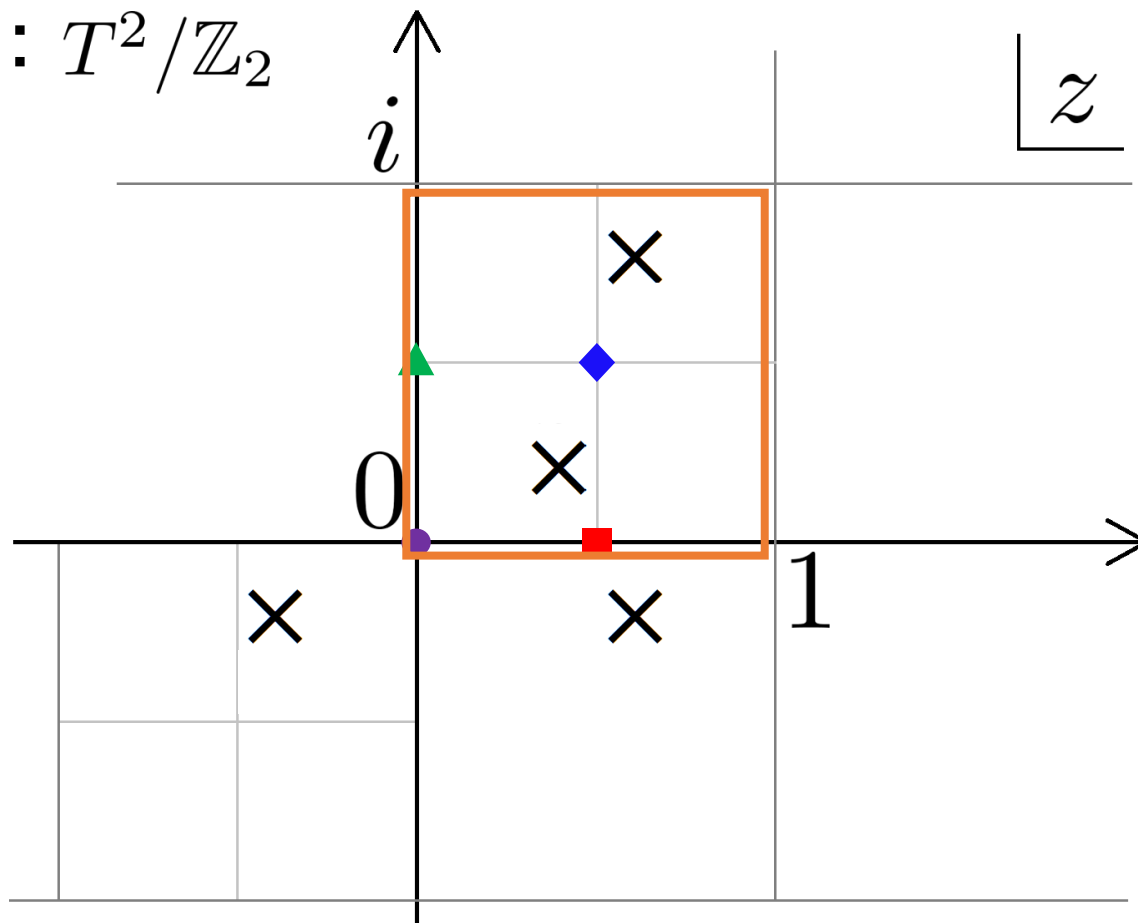




# 指数定理の導出(準備): 固定点

$T^2/\mathbb{Z}_N$  には **固定点** という特異点が存在

例:  $T^2/\mathbb{Z}_2$



- |         |        |   |             |
|---------|--------|---|-------------|
| ×       | : 通常の点 | ← | トーラスとして2つの点 |
| ● ■ ▲ ◆ | : 固定点  | ← | トーラスとして1つの点 |

# 指数定理の導出(準備):ゼロモード

## ■ 6次元カイラルフェルミオンを1つ導入

$$\Psi(x, z) = \sum_{n, j} \left[ \underbrace{\psi_{R, n, j}^{(4)}(x)}_{\substack{\text{4次元右巻き} \\ \text{フェルミオン}}} \otimes \underbrace{\psi_{+, n, j}^{(2)}(z)}_{\substack{\text{2次元} \\ \text{正カイラリティ} \\ \text{フェルミオン}}} + \underbrace{\psi_{L, n, j}^{(4)}(x)}_{\substack{\text{4次元左巻き} \\ \text{フェルミオン}}} \otimes \underbrace{\psi_{-, n, j}^{(2)}(z)}_{\substack{\text{2次元} \\ \text{負カイラリティ} \\ \text{フェルミオン}}} \right]$$

$n$ : 質量スペクトル  
( $n = 0 \iff m_n = 0$ )  
 $j$ :  $n$ に対する縮退を区別するラベル

クォーク・レプトンは  
本来質量0の粒子

ゼロモード:

$$\psi_{R, 0, j}^{(4)}(x) \longleftrightarrow \psi_{+, 0, j}^{(2)}(z) : n_+ \text{ 個}$$

$$\psi_{L, 0, j}^{(4)}(x) \longleftrightarrow \psi_{-, 0, j}^{(2)}(z) : n_- \text{ 個}$$

$$\text{世代数} = \text{ゼロモード数} = n_+ - n_-$$

# 指数定理の導出

## ■ ゼロモード数 = 指数

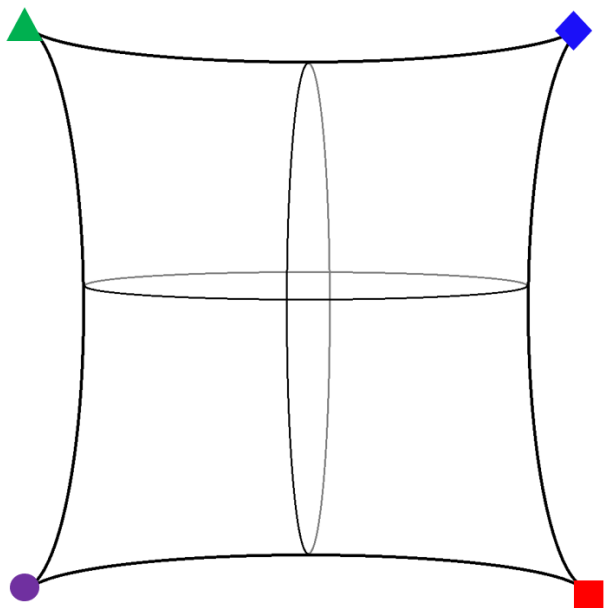
$$\text{ゼロモード数} := n_+ - n_-$$

$$= \frac{M}{N} + \text{tr} [\sigma_3]$$

$T^2$  の場合と同様に計算

通常, 0になる

しかし, 特異点の存在のため  
この項から寄与が現れる



# 指数定理の導出

$$\text{tr} [\sigma_3] = \int_{T^2/\mathbb{Z}_N} d^2 z \sum_{n,j} \left( \underbrace{\left[ \psi_{+,n,j}^{(2)}(z) \right]^\dagger \psi_{+,n,j}^{(2)}(z)}_{\sigma_3 \psi_{+,n,j}^{(2)}(z) = +\psi_{+,n,j}^{(2)}(z)} - \underbrace{\left[ \psi_{-,n,j}^{(2)}(z) \right]^\dagger \psi_{-,n,j}^{(2)}(z)}_{\sigma_3 \psi_{-,n,j}^{(2)}(z) = -\psi_{-,n,j}^{(2)}(z)} \right)$$

トレースを波動関数の完全系で展開

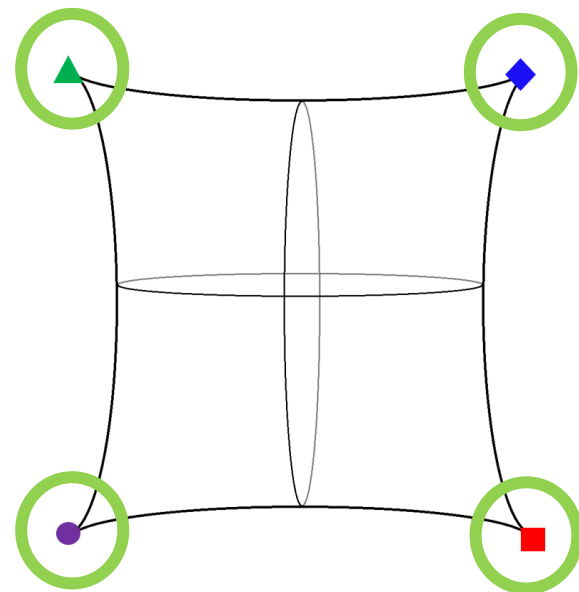
$n$ : 質量モード  
 $j$ : 縮退ラベル

ここから特異点(固定点)の寄与が現れる

$$\text{tr} [\sigma_3] = \frac{1}{2N} \int_{T^2} d^2 z \sum_{f=\bullet, \blacksquare, \blacktriangle, \blacklozenge} W_f(z) \delta^2(z - z_f)$$

$$= \frac{1}{2N} \sum_f W_f(z_f)$$

$\longrightarrow W_f(z_f)$  とは?

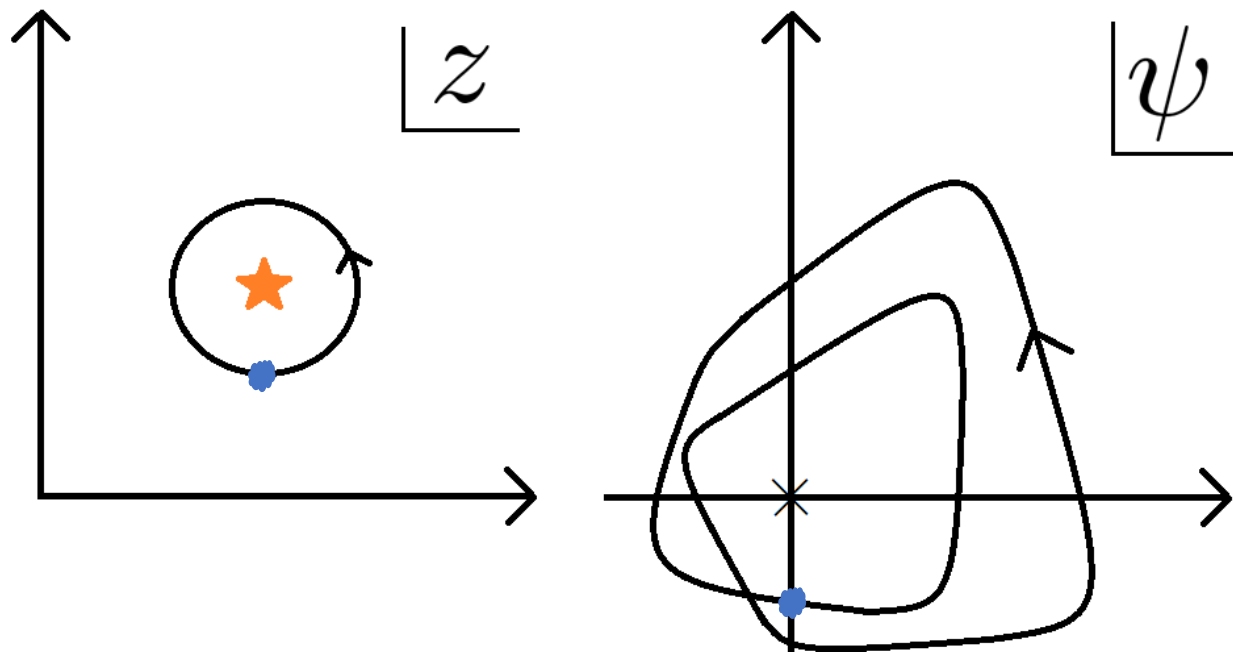


# 指数定理の導出：巻き付き数

$W_f(z_f)$  は固定点における **巻き付き数** の差で、

$$W_f(z_f) = -\chi_{+,f} + \chi_{-,f}$$

と書ける。 ( $\chi_{\pm,f}$ : 固定点  $z_f$  まわりの  $\psi_{\pm,n,j}^{(2)}(z)$  の巻き付き数)



例：巻き付き数2

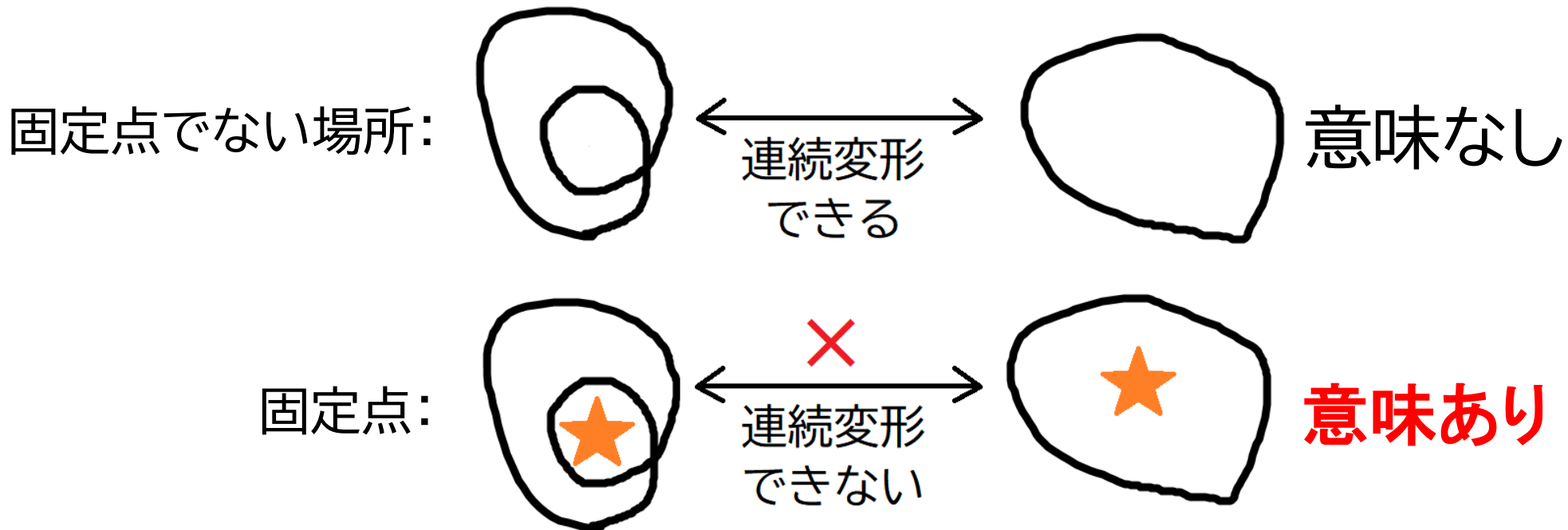
# 指数定理の導出：巻き付き数

$W_f(z_f)$  は固定点における **巻き付き数** の差で、

$$W_f(z_f) = -\chi_{+,f} + \chi_{-,f}$$

と書ける。 ( $\chi_{\pm,f}$ : 固定点  $z_f$  まわりの  $\psi_{\pm,n,j}^{(2)}(z)$  の巻き付き数)

固定点まわりの巻き付き数は、「ほどく」ことができない



# 指数定理の導出：巻き付き数

$W_f(z_f)$  は固定点における **巻き付き数** の差で、

$$W_f(z_f) = -\chi_{+,f} + \chi_{-,f}$$

と書ける。 ( $\chi_{\pm,f}$ : 固定点  $z_f$  まわりの  $\psi_{\pm,n,j}^{(2)}(z)$  の巻き付き数)

$$\text{tr}[\sigma_3] = \frac{1}{2N} \sum_f W_f(z_f) = \frac{1}{2N} \left( -\sum_f \chi_{+,f} + \sum_f \chi_{-,f} \right)$$



$$V_{\pm} = \sum_f \chi_{\pm f}$$

$$\text{tr}[\sigma_3] = \frac{1}{2N} (-V_+ + V_-)$$

# 結果と展望

- 結論…  $T^2/\mathbb{Z}_N$  における世代数の幾何的意味を導出

$$\underbrace{\text{ゼロモード数}}_{\text{世代数}} = n_+ - n_- = \underbrace{\frac{M}{N}}_{\text{磁束の寄与}} + \underbrace{\frac{1}{2N}(-V_+ + V_-)}_{\text{固定点(特異点)の寄与}}$$

$$V_{\pm} = \sum_f \int_{T^2} d^2 z \chi_{\pm f} \delta^2(z - z_f)$$

固定点における巻き付き数

- $N = 2$  の場合は完全に導出
- $N = 3, 4, 6$  の場合の導出は(大部分が)未完結